

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	入門シリーズ(健康管理概論) 200-01(01-02)	大和 浩	講義 実務研修センター 50名	6/5(月) 1/9(火)	コマ数	個人の生涯健康管理という視点、および多岐にわたる職業関連疾患(その多くは生活習慣病、非感染性疾患)の一次予防、高齢化する勤労世代の体力維持・増進の意義と具体的な事例について解説する。予防の概念と健康管理の方策を整理し、行動変容の技術としての行動医学的手法についても例示し、労働者の自律的な保健行動を支援していく方策を学ぶ。	
					0		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
2	身体活動基準2013に基づく健康増進活動の企画・立案 200-02(01-02)	大和・姜・道下	参加型講義 実務研修センター 15名	6/9(金) 2/16(金)	コマ数	定期健康診断の有所見率は増加の一途をたどっている。特に、メタボリックシンドロームを中心に生活習慣を見直すことによって改善が期待できる項目の有所見率の増加が目立ってきている。労働安全衛生法第69条でも、「事業者は、労働者に対する健康教育及び健康相談その他労働者の健康の保持増進を図るため必要な措置を継続的かつ計画的に講ずるように努めなければならない。」とされており、その企画・立案をするための基本を理解することは重要である。本講義では、仮想事業場における健診の集計結果をもとにグループディスカッションを行い、その職場における問題点をまず検討する。そして施設、設備等の職場環境を考慮しながら、解決するための具体的な対策について、健康増進の観点から企画・立案を行う。さらに、グループごとに発表を行うことで議論を深める。これら作業を通して、産業保健活動における健康増進対策の進め方について学ぶことを目的とする。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					実地 3		
3	健康診断の企画・評価に必要な疫学 200-03(01-02)	藤野 善久	講義 実務研修センター 50名	6/15(木) 1/30(火)	コマ数	健康診断の各項目やその制度の意義、感度と特異度、ROC曲線などスクリーニングにおける基礎的な知識、統計的な分布や診断基準・ガイドラインに基づく判定方法などを理解する。さらに、職域における健康診断情報を用いたサーベイランスに必要な変化への気づきとその理由の推測の実際や、費用便益、費用効果を理解し、職域健康診断の適切な実施とその活用基礎知識を得る。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
4	生物因子のリスクアセスメント 200-04(01-02)	谷口 初美	講義 実務研修センター 50名	6/13(火) 1/29(月)	コマ数	職場における生物学的リスク因子は微生物によっておきる感染症である。労働基準法施行規則第35条に「使用者が療養の費用を負担しなければならない業務上疾病」として、細菌・ウイルス等による感染症がある。新型インフルエンザ(経気道感染)やノロウイルス感染症(経口感染)のようなヒトからヒトへ伝播する感染症が労働現場に持ち込まれ、集団発生すると事業継続が困難になる恐れがある。一方、レジオネラ肺炎のようにヒトからヒトへは伝播しないが、人工水等のエアロゾル吸入で集団発生した場合は、水周りの管理責任は事業者に関わる。事業所における感染症対策は、職業関連疾患に対する法令遵守だけでなく、安全配慮義務、企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)、事業継続計画(BCP: Business continuity planning)の観点からも行わなければならない。本講座では、事業所における感染症関連の法令、感染症成立の3要因(病原体、感染経路、宿主)と対策、また労働衛生の5管理の観点からの感染症対策について理解を深める。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	放射線業務に関する健康管理 200-05(01-02)	岡崎 龍史	参加型講義 実務研修センター 30名	6/29(木) 2/7(水)	コマ数	放射線関連の事業所は約7千あり、そのうち民間企業は約3千存在する。労働者に対しては、労働安全衛生法電離放射線障害防止規則(電離則)に定められている特殊健康診断を年2回行わなければならない。福島原発事故後、100mSv未満の線量に被曝する労働者はどんどん増え続けている。さらに、除染作業に伴う電離則も施行された。従って、産業医は放射線の正しい知識を持ち、放射線を不適當に怖がらないようにするべきである。今回、放射線の基本、人体への影響、チェルノブイリ原発事故と福島原発事故の違い、放射線障害例、放射線管理、誤った情報、放射線リスクコミュニケーション等について説明する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		
6	非電離放射線の健康影響とその管理 200-06(01-02)	岡崎 龍史	参加型講義 実務研修センター 30名	6/29(木) 2/7(水)	コマ数	非電離放射線は、電離や励起を起こさない電磁波で、紫外線、赤外線、超音波、マイクロ波、レーザー波等である。労働基準法施行規則第三十五条において、これらによる疾病については療養補償の対象となる。これらが発生する作業現場、生体への影響、対処法および基準やガイドラインについて説明する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		
7	バイオロジカルモニタリング 200-07(01-02)	一瀬 豊日	参加型講義 実務研修センター 50名	6/30(金) 2/16(金)	コマ数	日本では「有機溶剤中毒予防規則」「鉛中毒予防規則」によりバイオロジカルモニタリングが健康診断で義務付けられている。労働者の化学物質曝露による健康障害を防止するためのバイオロジカルモニタリングを行う意義は非常に高い。多くの事業所で測定は外部機関に委託している。このため、正しい測定の実施、適切な評価のためには、バイオロジカルモニタリングの原理、測定前準備の注意事項、結果の解釈および評価方法が十分理解できてなければ無駄な投資となり、また適切な措置をとることはできない。本講義を通じてバイオロジカルモニタリングの適切な実施、評価ができるようになることを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		
8	海外派遣労働者の健康管理 200-08(01-02)	金澤 保	講義 実務研修センター 50名	7/14(金) 2/2(金)	コマ数	国内の産業構造の変化に伴い海外に長期派遣される労働者が増えている。そのため、産業医は国内とは異なった環境で生活せねばならない労働者あるいは同僚家族の健康問題にも注意を払わねばならない。出国前に準備せねばならない事は何か、海外においてどのような健康問題が想定されるのか、それへの対策は何か、万病気になった場合現地の医療システムはどのようなになっているのか、どのような保険が利用できるのか、帰国後に行わねばならない事等について実務的な話をする。医療関係書類の英文での書き方についても触れる。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	脳血管疾患に対する両立支援 200-09(01-02)	佐 伯 覚	講義 実務研修センター 50名	6/29(木) 1/29(月)	コマ数	障害者の社会参加・就労は重要なリハビリテーションの目標であり、ノーマライゼーションの理念を具現化するものである。わが国の障害者施策は、障害者雇用促進法に基づいて進められており、最近の改正により新たな段階に移行した。身体障害者の就労状況は増加傾向にあるが、障害者の重度化・高齢化、非正規雇用などの労働態様の変化、急激な医療環境の変化の影響を受けている。特に、脳血管疾患を有する中途障害者の職場復帰には多くの要因を考慮する必要があり、医療サイドと産業保健サイドとの調整による適正配置と両立支援が必要である。本講義においては、厚労省が公表した「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」における脳血管疾患に対する留意事項等について概説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
10	VDT作業の健康影響と対策 200-10(01-02)	川 波 祥 子	参加型講義 実務研修センター 20名	7/21(金) 2/ 2(金)	コマ数	現代の労働現場において、VDT作業は広く普及している。VDT作業に伴う主な健康影響として、眼の症状、筋骨格系症状が挙げられる。これらの症状が起きる原因とその対策について、VDT職場の実態調査やガイドラインを紹介しながら、講義を進める。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
11	上肢障害の診断と対策 200-11(01-02)	筒 井 隆 夫	参加型講義 実務研修センター 20名	6/15(木) 1/16(火)	コマ数	上肢障害は、ライン作業などの繰り返し作業、VDT作業などの長時間の同一姿勢などで起きる、頸から肩、上肢の筋骨格系障害である。上肢障害の疾患概念と診断方法、その対策について、自動車組立工場における事例を提示しながら講義を進める。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
12	健診事後の保健指導 200-12(01-02)	八 谷 百合子	講義 ロールプレ イ 実務研修センター 20名	7/21(金) 3/ 7(水)	コマ数	平成20年4月より「特定健康診査・特定保健指導」が開始された。特定保健指導は、内臓脂肪型肥満に着目し、その要因となっている生活習慣を改善するための保健指導を行うことを目的としている。対象者が、自ら生活習慣における課題を認識して行動変容と自己管理を行うとともに、健康的な生活を維持することを通じて、糖尿病等の生活習慣病を予防することを支援するものである。本講義では、特定健康診査の結果に基づく効果的な保健指導の行い方について概説する。対象者と信頼関係を築き、対象者に気付きや行動変容を起こさせるような具体的な指導方法について実習を通して学ぶ。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					実地 3		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	禁煙指導の実際 200-13(01-02)	八 谷 百合子	講義 ロールプレイ 実務研修センター 20名	7/28(金) 3/2(金)	コマ数	本講義では、プロチャスカの行動変容の理論に基づく効果的な禁煙指導について概説する。また、実践を通して効果的な禁煙指導を体得する。実習内容は、心理的依存に対する喫煙者のステージに合わせた指導とニコチン依存に対する代替医療に基づく指導である。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					実地 3		
14	企業における健康危機管理 200-14(01-02)	郡 山 一 明	講義 実習 実務研修センター 50名	7/4(火) 2/6(火)	コマ数	目的：産業医として必要な危機管理能力を獲得する考え方を模索する。講義の具体的内容：産業保健を取り巻く環境は、就業年齢の高齢化、流通のグローバル化、新興感染症の出現等、多様化している。これからの産業医には、これらの危機の多様化に対応できる能力が必要となる。また、自分自身で対応できることに加えて、他分野の専門家と、何について、どのような時点で連携するのかを把握しておく能力も必要である。身近な例から、これらについて議論を重ねながら、皆で考えてみたい	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 3		
15	行政の視点で企業健康管理に期待すること（労災補償の視点から見た健康管理） 200-15(01-02)	諸 富 伸 夫	講義 実務研修センター 50名	6/9(金) 2/9(金)	コマ数	平成27年12月にストレスチェック制度が施行される等、労働衛生行政は大きな変革期を迎えており、産業保健現場からも注目されているところである。企業健康管理を円滑に行う上では、関連法令の遵守のみならず、その趣旨を十分理解することが重要である。さらに、労働者が一人の人間として健康に過ごすためにも、地域保健との連携を踏まえた、切れ目ない支援が求められる。産業保健と地域保健との連携については、地域保健法第4条に基づく基本指針及び健康増進法第9条に基づく健康増進事業実施者に対する健康診査の実施等に関する指針において定められている。本講義では、労災補償の視点から見た健康管理をふまえ、政策立案における考え方、そして産業保健と地域保健との連携の重要性を学ぶことを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
16	健康危機管理対処の基本 200-16	箱 崎 幸 也	参加型講義 実務研修センター 50名	6/2(金)	コマ数	多数傷病者発生や化学災害などが起こるタイミングやその規模の事前予測は困難であるが、現実的なリスク評価を基に柔軟性のある対処計画が被害を最小限にする。初動対処としては、(1)計画立案と責任者の明確化・指揮権の確立、(2)状況把握から情報収集・共有化、(3)事前計画実行の決定、(4)初期評価と災害確認、(5)スタッフの安全確保・除染、(6)ゾーニング実施による人員・施設の安全確保、(7)トリアージ・応急処置、(8)原因物質のための検知・同定、(9)災害後の復興計画、(10)教育訓練による評価・再検討、である。大規模災害や工場などでの災害(NBCテロ含む)対処の危機管理は、教育や訓練を定期的・継続的に実施し、その評価にて行動計画の見直しにより実践的な計画の再構築を行うことが必須である。多くの災害事例を紹介し、さらに健康危機管理の基になるリスクコミュニケーションについても講義を実施する。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 3		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	メタボリックシンドロームと運動指導 200-17(01-02)	田中 宏 暁	講義 実務研修センター 50名	6/ 8(木) 1/11(木)	コマ数	近年、わが国において、生活習慣病対策が重要な課題となっている。生活習慣病を予防するためには、食事や休養のあり方よりもより継続して運動を実施することが重要である。運動指導を実施する際にもその指導スキルは重要であり、運動だけでなく日常生活での身体活動量を増やすことから始めていくなどの工夫も行われている。生活習慣病の予備群としてのメタボリックシンドロームの解説とともに、今後さらに産業保健活動を行っていく上で必要になっていくであろうヘルスプロモーションに関する知識やスキルについて解説していく。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 3		
18	女性労働 / 労働者保護 200-18(01-02)	長 井 聡 里	講義 実務研修センター 50名	6/23(金) 2/ 9(金)	コマ数	少子高齢化社会の職場における健康管理は、何を標準として保護すべきかという視点でなく、性差・年齢差・個体差などさまざまな属性を理解し、その特性を生かせるような配慮を、適切に実施することが大切となる。労働基準法・男女雇用機会均等法等の法改正によって、企業において義務化された母性健康管理を中心に概説し、労働者保護のあり方について学ぶ。また「母性健康管理指導事項連絡カード」の使用方法和活用状況を示しながら、実際の母性健康管理体制の推進と産業保健スタッフの役割について理解する。また、生涯を通じた女性の健康管理の視点から、産業保健における性差医療についても学ぶ。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
19	健康診断・事後措置 200-19(01-02)	立 石 清一郎	ケーススタディ個別ケース 実務研修センター 20名	6/ 5(月) 2/14(水)	コマ数	産業医による健康診断結果判定は、個々の項目についての検査値のみを評価するのではなく、職域周辺の情報(経年的データの推移、自覚症状、業務歴・作業態様、生活歴・家族歴などの情報)も含めて総合的になされ、それらの結果が事後措置に反映される。本講義では、一般健康診断における結果判定の意義や産業医が踏まえるべき留意点を学び、更には判定から事後措置までの概論と模擬事例の判定を行うことを通して、健康診断結果判定の考え方を理解することを目的とする。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					実地 3		
20	有機溶剤対策の実際 200-20(01-02)	センター教員	講義 実務研修センター 50名	6/21(水) 2/15(木)	コマ数	有機溶剤は、製造現場、建設現場などでの使用頻度が高く、その化学的特性から健康障害を引き起こすことが多い。本講義では、有機溶剤の健康に対する影響を理解し、健康障害の予防や早期発見のためにどのような対策がとられているのかを学ぶことを目的とする。また、自力で有害性の情報を収集することができることを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
21	有機溶剤特殊健診の模擬判定実習 200-21(01-02)	センター教員	参加型講義 実務研修センター 20名	6/21(水) 2/15(木)	コマ数	職場には人体に影響を及ぼしかねない要因が存在する場合が少なくない。これらの要因による健康影響を予防することは、産業保健上非常にプライオリティーが高く、多くの職場でその取り組みがなされている。健康管理の面からは特殊健康診断が実施され、該当要因による健康影響についての確認がなされている。よって、特殊健康診断の実施・判定、およびその事後措置は産業医にとって非常に重要な職務である。本講義・実習では、特殊健康診断の位置づけを理解するとともに、わが国で最も多く実施されている有機溶剤健康診断についての理解を深め、その評価方法、留意事項について学ぶことを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					実地 1.5		
22	職業性皮膚障害 200-22(01-02)	吉岡 はるな	講義 実務研修センター 50名	7/28(金) 2/9(金)	コマ数	職業性皮膚障害は多岐に渡り、その頻度も高い。接触皮膚炎から皮膚癌まで、実際の臨床症例を提示しながら、作業環境との関連について解説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		
23	有害業務による歯科異常と生活習慣病としての歯科疾患 200-23(01-02)	大矢 亮一	講義 実務研修センター 30名	7/13(木) 3/1(木)	コマ数	有害業務による歯科異常について概説するとともに、歯周病など生活習慣病としての歯科疾患について学習する。次の3点に講義の重点を置きます。1. 歯牙酸蝕症の病態と診断、2. ウ蝕の成因と予防、3. 歯周病の成因と予防	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		
24	交替勤務者の就業配慮 200-24(01-02)	久保 達彦	参加型講義 実務研修センター 50名	8/2(水) 3/1(木)	コマ数	交替勤務は従来より、鉄鋼業や病院などで見られる勤務形態である。近年は、情報化社会を背景にIT産業や食品加工業などでも導入する例が増えており、多くの業種で交替勤務が見られる。一方、労働者の視点からみると交替勤務による健康影響を懸念する声も聞かれる。本講座では、実際の事例を用いて、交替勤務の視点から医学的適性評価の考え方を理解すると同時に、事業所内で行われる就業配慮について学ぶ。【使用教材】・事例から学ぶ産業保健の実務(第1・2・3集) 大久保利晃 監修・産業保健事例研究会著 労働調査会・産業医のための事例でみる事業者が行う就業上の措置 厚生労働省労働衛生課 監修 産業医学振興財団	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
25	特殊健康診断についての概説 200-25(01-02)	立石 清一郎	講義 実務研修センター 50名	6/12(月) 2/22(木)	コマ数	業務上有害因子の曝露を受ける恐れがある場合、各種の特殊健康診断が実施される。産業医は、有害業務における業務起因性を明瞭にさせるために、作業環境測定結果や職場の状況、個人曝露評価も把握した上で、総合的に正確な判定をしなければならない。本講義では、特殊健康診断の位置づけ、特徴、一般健康診断との比較、業務起因性の推定についての具体論、法令による特殊健康診断の項目の各論を通じて、最終的には事後措置までを概説する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					更新 1.5		
26	腰痛健診の概要と実際 200-26(01-02)	武田 俊	参加型講義 実務研修センター 20名	6/30(金) 2/16(金)	コマ数	業務上疾病(休業4日以上)における災害性腰痛の発生件数は年間約5,000件に達し、業務上負傷疾病の約8割を占めている。そのため「職場における腰痛予防対策指針」が策定され、行政指導(通達)に基づく特殊健診として、腰痛健診が重量物取り扱い作業等に実施されている。本講義では、腰痛健診の法的位置づけ、健診の対象業務、ならびに健診の体系を概説し、実際の健診結果票を元に症状や所見のポイントを解説する。また腰痛対策全般において腰痛健診はその一部に過ぎず、むしろ作業管理および健診からの事後措置が重要である。腰痛の最近の知見・実際の作業場所の事例および裁判例などを紹介し、腰痛に対しては総合的な対策が重要であることを理解する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
27	仕事と治療の両立支援 200-27(01-02)	立石 清一郎	講義 実習 実務研修センター 50名	6/22(木) 1/25(木)	コマ数	病気に対する企業の対応は健康状態と職業上のマッチングを検討する職務適正の判断を行うことが一般的であった。しかしながら、超高齢社会に突入した我が国においては病気などの多少の働きにくさを持った労働者であっても本人を治療を受けながらも仕事ができる環境を支援することは産業医にとって重要なスキルになりつつある。本実習においては理論的背景とともに産業医の在り方について受講者とともに議論する。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					実地 3		
28	熱中症予防対策 200-29(01-02)	堀江 正知	講義 実務研修センター 30名	6/30(金) 2/5(月)	コマ数	熱中症は、熱傷を除く暑熱による健康障害の総称であり、熱虚脱、熱けいれん、熱射病などが含まれる。日本の労働災害統計においては、熱中症による死亡者が建設業などを中心に毎年20人前後発生しており、重要な課題となっている。本講義では、熱中症の発生に関係する温熱生理、職場における温熱環境の指標と基準、実施可能な労働衛生対策について紹介する。また、産業医活動における熱中症予防対策の要点と課題について検討する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
29	積極的傾聴法 200-30(01-02)	真 船 浩 介	学内実習 実務研修センター 20名	7/20(木) 1/19(金)	コマ数	「労働者の心の健康の保持増進のための指針」において推進されている「ラインによるケア」では、相談対応が管理監督者の役割の一つとして位置づけられ、話の聴き方や情報提供及び助言の方法等、管理監督者を対象とした相談対応のための教育研修も重視されている。代表的な研修内容の一つである積極的傾聴法を職域に幅広く定着させるには、産業保健スタッフが自ら指導できることが望ましい。本講義は、積極的傾聴法の目的を概説し、発見的体験学習法による実習を行い、管理監督者教育として指導する際のポイントや実践例を紹介する。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					実地 3		
30	メンタルヘルス事例検討 200-31(01-02)	廣 尚 典	参加型講義 実務研修センター 20名	7/20(木) 1/12(金)	コマ数	職場でみられる代表的なメンタルヘルス不調例を提示し、その標準的な対応（本人、職場関係者への支援、職場環境、制度への働きかけ）について、手順、留意点などを解説する。また、処遇困難例や最近増加している問題についても取り上げ、産業保健スタッフとしての関わり方をディスカッションしてもらう。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
31	職業性ストレスの評価法とストレスチェックの実際 200-32(01-02)	真 船 浩 介	講義 実務研修センター 20名	7/ 4(火) 2/23(金)	コマ数	職業性ストレスの主要な評価方法である労働者を対象とした質問紙調査について、主要な理論モデルに基づく評価方法を紹介し、ストレスチェック制度（心理的な負担の程度を把握するための検査）における活用方法と調査法の留意点を解説する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		
32	精神障害の労災問題 200-33(01-02)	廣 尚 典	講義 実務研修センター 30名	7/13(木) 2/14(水)	コマ数	2011年12月、「心理的負荷による精神障害の認定基準」が示された。1999年「心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針」が公表されて以降、精神障害の労災認定例は増加の一途を辿っており、産業保健スタッフとしても、その動向や考え方を知っておくことは、実務上極めて重要となっている。本講座では、精神障害の労災認定について、これらの変遷を辿るとともに、新しい基準のポイントを解説し、それを産業保健活動にどのように生かすべきかを考察する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
33	メンタルヘルスへの取り組みー組織心理学の視点ー 200-34(01-02)	北 島 茂 樹	参加型講義 実務研修センター 50名	6/ 7 (水) 1/24 (水)	コマ数	一般目標（G I O）：構造的な低成長経済下、日本の産業組織は変革の波のなかにあり、「組織カバナンス」なども大きく変貌しつつある。勤労者にとっては、戸惑い・ストレス・不安が、また 職場の人間関係においては、きこちなさ・冷たさ・疑心暗鬼が増大している。勤労者のメンタルヘルスを支えるアプローチには幾つかの種類があるが、ここでは「ポジティブ・ヘルス」を切り口とした組織心理学の観点を学ぶ。行動目標（S B O）：メンタルヘルスの取り組みについて整理できる 職場づくりとポジティブ・メンタルヘルスの関係が理解できる 職場づくりにおける管理・監督者のリーダーシップの大切さが理解でき、その能力ないし行動の改善方法がわかる 職場づくりに有効な経営施策が理解できる 職場づくりに必要な「社員・職員の態度・行動」が理解できる 職場づくりに有効な労働組合の役割が理解できる。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
34	精神疾患と健康管理：統合失調症 200-35(01-02)	新 開 隆 弘	講義 実務研修センター 50名	7/ 6 (木) 2/22 (木)	コマ数	統合失調症の多くは、職場での奇異な言動や行動から周囲の人に気付かれ、外来だけの治療では回復せず入院を要することも多い。また自分が病気であることの認識もないため周囲の人とトラブルを起こすこともある。したがって、産業医と精神科医との密接な連携は復職後の適正な職場配置や再発を防止するために必要であり、産業医はこれらの症状把握が課題となる。そこで統合失調症の症状、経過、治療を学ぶ。統合失調症では特に被害妄想から人間関係に破綻をきたすことも多く、職場のメンタルヘルスの観点からも良好な人間関係を築く指導を産業医はする必要がある。また類型によっては予後不良な事例もあつること、さらに最近の向精神薬は治療の継続の上でも必要であることを学ぶ。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
35	精神疾患と健康管理：気分障害（うつ病を中心に） 200-36(01-02)	吉 村 玲 児	講義 実務研修センター 50名	7/ 4 (火) 2/27 (火)	コマ数	最近、職場の中にうつ病患者が増えており、我が国で増加している自殺の主な原因疾患になっている。そこで自殺防止対策としてもうつ病の早期発見、早期治療が重要となってきた。うつ病は日本人の7人に1人は罹る一般的な病気である。うつ病に対する正しい理解がないと職場の上司、同僚などの対応は難しい。うつ病とはどんな病気であるのか症状、診断基準、治療について講義を行い、その対応について述べる。うつ病は基本的には治る病気ではあるが、遷延する症例も多く、糖尿病や高血圧と同様な慢性疾患と捉えて対応する必要がある。また、現実的には外部医療機関の精神科医や心療内科医などの専門医と産業医との密接な連携が復職や再発防止にも必要であることなどを学ぶ。その他の気分障害として躁うつ病などについても簡単に説明する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
36	精神疾患と健康管理：職場不適応（パーソナリティ障害、発達障害、アルコール依存症） 200-37(01-02)	堀 輝	講義 実務研修センター 50名	6/21 (水) 2/ 5 (月)	コマ数	職場における適応障害の中で人格障害の患者、特に境界性人格障害は他人を巻き込み、自傷行為を繰り返す、職場の人間関係を壊すなど対応が非常に困難である。産業医、上司、同僚などそれぞれの立場で事例を通して、人格障害とはどのような病気であるのかを理解し、その対応を学ぶ。発達障害についてはとくに広汎性発達障害；アスペルガー症候群を中心に学ぶ。またアルコール依存症について、飲酒行動は特に職場では円滑な人間関係を築くために有る程度必要であると考えられる。しかし過剰な飲酒や連続飲酒が続くと、アルコール依存症となり、仕事の能率を低下させ人間関係を壊すことにもなる。さらにアルコール依存症は糖尿病や脳卒中などの身体疾患を併発したり、二次性うつ病を発症させることもあり、正しいアルコール依存症に対する知識が必要である。アルコール依存症とはどんな疾患であるか、治療法、経過などについて学ぶ。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
37	メンタルヘルス：事業場外資源によるケア 200-38(01-02)	市川佳居	講義 実習 実務研修センター 30名	7/10(月) 1/10(水)	コマ数	職場におけるメンタルヘルス対策において、EAP(Employee Assistance Program=従業員支援プログラム)の役割や取り組みについて概説する。産業医としてEAPを導入する際の手順、EAPベンダーの品質管理、EAPとの連携方法、その他EAPの活用方法を、事例を入れながら解説する。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
					専門3		
38	メンタルヘルス：復職支援とケーススタディ 200-39(01-02)	廣尚典	講義 実務研修センター 30名	6/8(木) 1/16(火)	コマ数	職場のメンタルヘルス対策における職場復帰支援は特に産業医に関わりが求められる重要な産業保健活動のひとつである。そこでは、精神医学の基礎知識に加え、人事労務領域の諸制度や管理監督者の役割、主治医や家族との連携などに関する理解が必要となる。本講座では、職場復帰支援の基本的な取り組み方を、行政の動向、過去の判例などを交えて概説する。ケーススタディでは、現場で遭遇することの多い事例を取り上げ、小グループによる討論、解説などによって実践的な知識・技術の習得を目指す。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門1.5		
39	メンタルヘルス：復職支援とケーススタディ 200-40(01-02)	廣尚典	ケーススタディ個別ケース 実務研修センター 30名	6/8(木) 1/16(火)	コマ数	職場のメンタルヘルス対策における職場復帰支援は特に産業医に関わりが求められる重要な産業保健活動のひとつである。そこでは、精神医学の基礎知識に加え、人事労務領域の諸制度や管理監督者の役割、主治医や家族との連携などに関する理解が必要となる。本講座では、職場復帰支援の基本的な取り組み方を、行政の動向、過去の判例などを交えて概説する。ケーススタディでは、現場で遭遇することの多い事例を取り上げ、小グループによる討論、解説などによって実践的な知識・技術の習得を目指す。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門1.5		
40	特殊健康診断の実際 200-41	坂本史彦	講義 実務研修センター 30名	7/12(水)	コマ数	事業場における特殊健康診断の実施については、各企業によって実施方法は様々である。企業によっては、企業グループ内に労働衛生機関を持ち、定期健康診断や特殊健康診断を実施することにより、健康診断の実施や判定の精度を高める工夫をしている所も存在する。このカリキュラムでは、ある企業グループに属する労働衛生機関から講師を招き、特殊健康診断の内容、実施方法、判定について解説していただく。また、実際の診察手技についても実習する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
41	職場における喫煙対策 200-42(01-02)	大 和 浩	講義 実務研修センター 50名	6/12(月) 1/10(水)	コマ数	労働安全衛生行政における喫煙対策の変遷、労働衛生の三管理としての喫煙対策(作業環境管理=建物内・敷地内全面禁煙による受動喫煙と三次喫煙の防止、健康管理=禁煙サポート、作業管理=勤務時間中の喫煙禁止による作業密度の公平性)について解説をおこなう。また、安全衛生委員会で説明すべき内容(能動喫煙と受動喫煙による健康障害の大きさ)、「職場における喫煙対策のためのガイドライン」(厚労省、2003年)で示された「一定の要件を満たす喫煙室」の問題点(受動喫煙を防止できないこと、喫煙者が禁煙する意欲を阻害すること)、「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」第8条と2015年に改正された労働安全衛生法の相違点、建物内禁煙や敷地内禁煙によって得られる喫煙率の低下、健診とリンクさせた禁煙サポートの効果、受動喫煙対策が第12次労働災害防止計画で重点項目として扱われることになったことについても解説する。 http://www.tobacco-control.jp/	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
42	産業医に必要な睡眠学 200-43(01-02)	新 島 邦 行	講義 実務研修センター 50名	6/26(月) 1/22(月)	コマ数	労働者の疾病予防を目指した健康維持・増進活動は産業保健活動の重要な柱の一つです。近年、国民のライフスタイルの変化や企業活動のグローバル化に伴い、肥満・ストレスなど生活習慣病の要因を抱える労働者や仕事で深夜に及ぶ労働者が増えています。このことは、良質な睡眠を妨げる要因にもなります。睡眠(休養)の運動・食事(栄養)と並ぶ、健康維持・増進のための3大要素の一つです。したがって、現代の労働者の健康管理において、睡眠に関わる問題への対応は不可欠となっています。当講座では、先生方が産業医として現場に赴く際に必要となる知識、技能の一つとして、労働者の睡眠障害への対応を理解していただくことを目標とします。「睡眠医学の基礎」に加え、産業医学の中の睡眠医学、あるいは睡眠医療の労働衛生への応用という観点から、「労働者の健康管理における睡眠の重要性」と「睡眠障害への対応の必要性」についてお話します。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
43	視覚障害者に対する産業保健 200-44(01-02)	高 橋 広	講義 実務研修センター 50名	7/18(火) 1/30(火)	コマ数	目を患うと眼科を受診して診断・治療を受けますが、職場の定期的な健診で発見されることもあります。このような場合でも、見えにくくなった目で、日常生活や仕事を続けなければならず、一人で頑張っていることが多いようです。そして、目の状態がさらに、悪化すると、病状や仕事で悩みや苦しみが大きくなり、場合によってはうつ状態に陥ります。したがって、メンタルヘルスクエアが大切ですが、それだけでは見え方は改善しませんので、その効果は限定的です。このような場合、当事者が持っている視機能を最大限に活用してOOL向上を目指すロービジョンケアが役立ちます。しかし、それは眼科医療においても限られたところでのみ行われており、産業保健の分野にはほとんど周知されていません。本講習では眼科でのロービジョンリハビリテーションについて実習を含め講義します。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
44	産業医のための循環器講義 200-45(01-02)	安 部 治 彦	講義 実務研修センター 50名	7/24(月) 2/19(月)	コマ数	国内で発生する心臓突然死数は年間73,000人にも達することが総務省消防庁データから明らかになっている。一般的には高齢者に多いが60歳代以下の就労世代にも年間約16,000人程度発生していることが判明している。一方で、職場や家庭で失神発作を来す人は多く、この中には心臓突然死の前兆としての症状である場合も含まれている。失神を来した就労者をどのように就労指導し、職場復帰させるか、あるいは心臓突然死をいかに予防するか、突然死予防のために植込み型徐細動器(ICD)治療を受けた就労者に対し、産業保健従事者にどのような点に気をつけて指導したらいいのか、ペースメーカー患者とはどう違うのか、等は大きな問題となっている。心臓突然死や失神の原因は何か、就業ストレスはその発生に関与するのか、職場復帰に際し注意すべき点にはどのようなことがあるか、等の問題について講義する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
45	職場で問題になる感染性疾患の健診、感染対策 200-46(01-02)	鈴木 克典	参加型講義 実務研修センター 50名	6/28(水) 2/14(水)	コマ数	事業所における感染症発症は、我々が推進している産業安全衛生活動の現場に於いて想定される大きな危機の1つである。世界に目を向ければ、結核は3大感染症の1つであるし、国内においても、HIV感染症の蔓延に有効な対策がなされていない現状や、海外労働者の流入などによって、労働現場における結核発症のリスクは増大していると言わざるを得ない。どんなに十分な感染対策を行っていても結核をはじめとした感染性疾患はある一定の確率で発生する。発生した感染症の2次感染を予防し、労働現場の生産性を落とさないということが産業医学に課せられた使命の1つであると考えられる。この中でも、感染症を発症した労働者の周囲の労働者の発症リスクを考え、トリアージを行う必要があり、保健所など関係機関との連携を深めていかなければならない、まさに産業医の「腕の見せ所」である。本講義では、実際の感染症発症の事案を検証することによって、産業安全衛生活動の現場における感染性疾患の位置づけ、アウトブレイク対応などを学ぶことを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
46	粉じん作業者の健康管理上の課題 200-47(01-02)	森本泰夫・和泉弘人	講義 実務研修センター 50名	6/7(水) 2/28(水)	コマ数	高濃度の粉じん曝露によって生じる肺線維症「じん肺」は最も古くから知られた職業病であり、国際的には現在も代表的な職業性疾患である。従来のはたき作業、伝統産業、重厚長大産業における曝露に加え、近年では、石綿、超硬金、ヒューム（溶接工肺）による様々な職場での肺疾患、さらにはナノマテリアルの扱いも課題となっている。粉じん作業者の健康管理に関わる法律であるじん肺法の概要ならびにじん肺健診の現状、専門職としてスクリーニング、診断に関わる場合の考慮すべき要点について概説する。また、労災認定のプロセスを解説し、産業医あるいは臨床医としてこれに関わる場合の留意点について解説する。対象者はじん肺写真の読影ならびに職業性呼吸器疾患の症例について一定の経験がある医師が好ましいが、受講対象に応じて内容を調整する。粉じん曝露作業に起因する職業性肺疾患の発生、診断、労災補償の現状と、今後こうした作業者の健康管理に携わる場合の基本的な配慮事項について意見交換の機会を設けて理解を図る。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
47	企業内のパンデミック拡大防止の実例 - 問題解決における情報の重要性 - 200-48(01-02)	眞崎 義憲	講義 実務研修センター 50名	8/1(火) 2/23(金)	コマ数	2009年に発生した新型インフルエンザのような大規模感染症が発生した際、企業には事業の継続と業務上発生しうる従業員と顧客の感染拡大防止という、相反する二つのことを実現する必要に迫られる。このような事態に備えて事業主がBCP（事業継続計画）を策定する際、産業医は各業種に応じて、各事業場での感染拡大予防が実施できるように助言することが求められる。本講座では、種々の事業所の中でもサービス提供者および受益者の双方で感染拡大を惹起しやすい教育現場での感染拡大防止の実例を通して、問題解決における情報の重要性、とくにその収集と解析、取り扱いに関して講義を行う。	
					2		
					医師会認定 単位数区分		
48	従業員が海外渡航する際の性感染予防 200-49(01-02)	濱 砂 良 一	講義 実務研修センター 50名	7/27(木) 2/15(木)	コマ数	性感染症（sexually transmitted infection：STI）とは広義の性行為によって感染する感染症である。STIを臨床症状よりおおまかに分類すると、尿道炎・子宮頸管炎などの炎症性の疾患、性器ヘルペスなど性器に潰瘍を形成する疾患、尖圭コンジローシスや梅毒など腫瘍を形成する疾患、HIVに代表される全身疾患に分けられる。また、性行為の多様化から、咽頭、直腸など性器外臓器のSTIも増加している。現在、わが国では流行はないが、軟性下疳のように海外では広く蔓延している疾患も数多い。男性従業員が海外渡航する場合、海外の売春婦からSTIに感染する機会が多い。近年、コンドームの使用が義務化されている地域もあるが、海外でのHIV感染を含めた症例は減少していない。本講座では、各STIの症状などとともに、海外におけるSTIの現状、コンドームによる感染予防の実態などについて、概説する。	
					1		
					医師会認定 単位数区分		
					専門 1.5		

平成29年度

健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
49	職場における転倒防止のための体力づくり 200-50(01-02)	江口 泰正	講義 実習 実務研修センター 50名	7/25(火) 2/23(金)	コマ数	職場における転倒災害が近年増加してきている。労働者の高齢化がその一因とも考えられるが、環境整備だけでこれを予防するには限界がある。「身体の機能は、適度に使うと発達し、使わなければ萎縮（退化）し、過度に使えば障害を起こす」（ウィルヘルム・ルー）という理論は、身体機能の維持、向上の重要性を示しており、環境整備のみの管理では労働者の身体機能がますます低下し、さらに転倒しやすくなるという悪循環に陥ってしまうということが理解できる。そこで本講義・実習では、転倒予防に重要な体力とその向上法について、簡単なチェック法や実際の取り組み例などを交えて紹介する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					実地 1.5		
50	産業医学と呼吸器疾患 200-98	矢寺 和博	講義 実務研修センター 50名	6/28(水)	コマ数	呼吸器は外界との接触の場として皮膚などとともに有害物質にばく露されやすい臓器である。歴史的にも産業医学の父と呼ばれる16世紀のイタリアのパドヴァ大学ベルナルディーノ・ラマツィーニの著書である「働く人々の病」の中でも、非常に多くの職業と関連した呼吸器疾患が記載されており、古くから職業・労働環境と呼吸器疾患の関係は認識されてきた。現在でもじん肺などを代表に職業性喘息や肺癌、悪性胸膜中皮腫などがあり、職歴や職場環境の正確な把握は呼吸器疾患の正確な診断には非常に重要な要素の一つである。 本講義では、外界と最も密に接する内臓器である呼吸器という側面から産業医学や環境との関連について具体例を挙げながら概説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					専門 1.5		
51	健康経営とは - その考え方と推進の背景 200-99	岡田 邦夫	講義 実務研修センター 50名	7/12(水)	コマ数	我が国の超少子高齢化社会は、労働現場の高齢化を進めることになった。リクルートでは、中小規模事業場はその半数が人手不足、との報告がなされており、今後ますます企業における労働力不足が企業の課題となることが予測される。一方、働く人の健康問題が安全配慮義務違反、労働災害等として司法の場で議論されるようになり、経営責任追求や高額な賠償請求がなされるようになっていく。 このような背景の中で、企業が従業員の健康を経営の視点でとらえ、事業として投資を行い、利益として、労働生産性と働く人の豊かな生活を確保する健康経営が社会的に認められ、「健康経営銘柄」としてのブランドが確立されつつある。企業価値を高めるには、社会から評価されることが必要であり、その条件として、商品価値のみならず、働く人の健康にも注目するようになった。本講座では、健康経営の基本的な考え方とその進め方について概説することを予定している。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					専門 3		
					コマ数		
					医師会認定 単位区分		